

●：質問させていただいたもの ○：質問できなかったもの

（手話で挨拶）

1、町長の今任期における実行計画は

杉戸町が将来にわたり持続可能な発展と繁栄を遂げていくためには、当町全体の現状や課題という「全体像」を認識した上で、どのような将来像を描き、具体的にどのような施策を進めていくのかを明確にすることが極めて重要であると考えます。限られた財源や人的資源をどの分野へ重点的に投入・投資していくかという決断は、まさに今後の杉戸町の将来を大きく左右します。町長は今任期における「責任」として何を実行し、当町をどのような未来へと牽引していけるのか、具体的な実行計画の内容を政策ごとに伺います。

（答弁 町長）

質問事項 1 についてでございますが、現在、町を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化の進行、公共施設の老朽化、地域経済の活力向上など、様々な課題が顕在化しております。一方で、豊かな自然や農業、歴史ある日光街道杉戸宿、ココティすぎとや東武動物公園東口通り線を中心とした地域コミュニティなど、これからのまちづくりに生かすことができる多くの地域資源があります。こうした当町の課題を克服するとともに、地域の強みを生かし、人口減少の中にあっても持続可能なまちづくりを推進していくことが、今後の町政における重要な課題であると認識しております。

その上で、私の 2 期目の公約につきましては、総合振興計画後期基本計画との整合を図りながら、優先順位を明確にし、具体的な施策として着実に実行していくことが重要であると考えております。私は 2 期目の公約として、4 つの政

策を掲げておりますので、それぞれの重要施策について、主なものを申し上げます。

まず、「安心感アップ」では、万全の備えで命を守り抜くまちを目指し、引き続き、中核病院をはじめとした町内医療体制の充実に向けた取組を継続するとともに、治安や安全面のリスクを防止するため、空き家対策の強化などに取り組んでまいります。

次に、「快適さアップ」では、ストレスフリーで気持ちよく動けるまちを目指し、引き続き、下野久喜線の茎を継続するとともに、町民の日常生活を支える持続可能な地域公共交通の実現に向けた見直しなどを進めてまいります。

次に、「活力アップ」では、地域の魅力を発信できるまちを目指し、角穀跡の利活用をはじめ、農業や商業、観光など、町が持つ地域資源を生かした取組を進め、地域経済の活性化と町の魅力向上につなげてまいります。

最後に、「満足度アップ」では、みんなが主役で未来に輝くまちを目指し、子育て世代の負担軽減につながる学校給食費の無償化を完遂するとともに、西小学校をはじめとする町有財産の利活用の検討など、将来のまちづくりを見据え、地域住民の皆様の御意見を伺いながら、地域活性化に取り組んでまいります。

これらの重要施策については、総合振興計画後期基本計画に掲げる施策との連携を図り、限られた財源や人材を効果的に活用しながら、優先順位を明確にして取り組むことが重要であります。

そのため、今後におきましても、公約を町政運営の重要な指針として、後期基本計画と一体的に推進し、人口減少などの課題に的確に対応するとともに、町の持つ地域資源や魅力を最大限に生かし、「安心して暮らせる、快適で活力があり、住んでよかったと感じられる杉戸町」の実現に取り組んでまいります。

(再質問)

●町長のご体調について、地域住民から心配の声をお聞きしております。地域住民からは職務に支障なく、今任期を全うできるのかといった声がございしますが、問題なく職務に専念できるのか伺います。

●「杉戸町のために」情熱を持って、職務に専念していただけると理解してよろしいでしょうか。

●「優先順位を明確にする」ということですが、これから優先順位を明確にするのでしょうか。1期目の結果を踏まえ、2期目においては何を改めていきたいと考えているのか併せて伺います。

●埼玉県（中核的病院誘致に対して）が、久喜市（下野久喜線整備に対して）が、と言っている、前に進みません。確かにそういう現状はありますが、外的要因に関係なくできることに尽力するべきだと考えますがいかがでしょうか。

●公約を掲げるだけでなく、任期終了時に検証できるよう、それぞれ「いつまでに」「どこまで進めるのか」という目安を示す考えはあるのか伺います。

●「何をいつまでにどこまで進めるのか」「公約の達成率の見える化」は必要だと思っております。前に進めていくのは大事なことです、どれくらい前に進んでいるかを確認することは重要だと考えます。そのためには具体的な数値目標を設定することで客観的な視点で前に進んでいることが確認できます。例えば、「出生率を0.8から1.0にする」とかこのような指標を、町長が1番果たしたい政策だけでも定量的に評価できるようにされるのはいかがでしょうか。

●（中核的病院）中核的病院誘致に当たり、民設民営を前提としているのか、公設民営や町立病院まで選択肢に含むのか、土地、建設、開設後の運営を含め、町の財政負担をどこまで想定しているのでしょうか。

●（中核的病院）中核的病院誘致によって、住民税が上がるなど町民負担が増えることも考えられますが、地域住民にデメリットも明示して、説明責任を果たされていくのか伺います。

●（空き家）空き家対策の強化ですが、先日の総合振興審議会においても、空き家対策のマンパワー不足のご意見がございました。マンパワー不足の解消は図っていかれるのか伺います。

●（下野久喜線）下野久喜線については、お金がかからない部分について進めていくことが現時点における最善手だと考えております。筆界未定地を含めた地域住民への説明について、地権者の方々を直接伺い、現状の説明をされていくということですが、いつまでにされるのでしょうか。下野久喜線の整備において、今任期中に少なくともどこまで進めるお考えなのか伺います。

●（地域公共交通）免許返納後の移動手段に困るお声をいただいております。現行の巡回バス運行計画は令和 11 年度までであり、令和 12 年度からは、このようなお困りの声に最大限に応えられるよう、新計画を実施していただきたいと考えております。令和 12 年度以降の次期計画に向け、現行計画で何を課題とし、何を変え、結果どうなったのかを検証した上で残っている課題を整理し、新計画に向けて準備していただきたいがいかがでしょうか。

○（地域公共交通）土日はライドシェア等で補完するという小さな実証も良いと考えております。土日だけ副業したい現役世代・若者など、従来のバス運転士とは異なる労働供給に頼れる可能性もありますが、いかがでしょうか。

○（東口通り線）東口通り線周辺について、町長は最終的にどのようなまちの姿を描いているのでしょうか。道路完成後、人の流れ、商業、観光、土地利用がどう変わっていったほしいと考えているのか伺います。

○（東口通り線）例えば、杉戸宿周辺は歴史や既存街並みを生かすエリア、下野久喜線の予定地周辺は新たな商業・居住を呼び込むエリアというように、地区ごとの役割分担・景観の方向性まで描くお考えはあるのか伺います。

●活力アップという以上、イベント開催数だけでなく、新規出店や民間投資、空き店舗の減少など、実際に地域経済が動いたかまで成果として見る必要があると思います。何をもって活力アップしたと評価するのか伺います。

●令和８年６月定例会における私の一般質問の質問事項２における町長の御答弁に「両利きの経営」で全力で町政運営を推進されていくとございました。少子高齢化などがある中、新規事業の「探索」と既存事業の「深化」で、どのような経営をして、町政を前へ前へと進めていかれるのか伺います。

●経営と仰るからには、厳しい財政・人員状況の中で「できないものはできない」とし、地に足を付けた町政運営が大切だと考えます。ときには、事業の軌道修正や廃止もやむを得ないと考えますが見解を伺います。

●町長はご自身の任期の後をどのように考えているのでしょうか。次の世代にどのような町を引き継ぐのかという視点で、町長が今任期で果たすべき責任は何か伺います。

2、AI 時代における教育の在り方は

近年、生成 AI は急速に普及しており、文章作成・情報検索・要約等が容易にできる時代になっています。一方で「AI の回答だから正しい」という思考停止が広まれば、人間自身が主体的に考え、判断し、責任を負う力が弱まる危険性もあります。重要なのは、「AI を使いこなしつつも、最終的には自ら考え、判断し、責任を負うことができる人間」を育てることだと考えます。当町において、AI を活用しつつも、子どもたちに善悪判断や価値秩序を身につけさせるために、どのような教育実践や情報モラル指導が行われているか伺います。

（答弁 学校教育課長）

質問事項 2 について、事務を担当しております私からお答えをいたします。

議員御指摘の通り、生成 AI をはじめとするデジタル技術が飛躍的に発展する現代社会におきましては、利便性を追求する一方で、情報を鵜呑みにすることなく、自ら考え、判断し、適切に行動できる力を育むことが重要であると認識しております。

本町におきましては、生成 AI の特性とリスクに留意しつつ、国や県のガイドラインを踏まえた「生成 AI 利活用ガイドライン」を策定いたしました。本ガイドラインは、教職員および児童生徒双方を対象とし、生成 AI の適切な利活用の基本的な考え方及び遵守事項を定めております。これに基づき、各学校では「児童生徒対象生成 AI 利活用ルール」を策定しております。本ルールでは、生成 AI を単に答えを求める手段ではなく、自らの思考を深めるための支援ツールとして位置付けております。AI の出力結果はあくまで参考の一つとして必ず事実確認を行うことや、個人情報を入力しないことなどの遵守事項を徹底し、児童生徒の主体的な探究活動や対話的な学びに生かせるよう取組を進めているところでございます。

また、情報モラル教育として各学校の指導計画に基づき、日々の学級指導や総

合的な学習の時間、道徳などで、発達段階に応じて指導しております。さらには、県、企業の事業活用や警察署との連携により、ゲストティーチャーとして招聘し、小学校高学年や中学生を対象に情報モラル教室を開催しております。これらの取組を通して、インターネット上の著作権の遵守や個人情報の保護、SNS におけるマナーにとどまらず、情報の真偽を見極める視点や、デジタル社会における善悪の判断、自己責任の重要性について体系的な指導を継続しております。

生成 AI をめぐる技術革新や児童生徒を取り巻くデジタル環境の変化は非常に速く、それに伴うリスクも高度化・複雑化しております。いかに技術が進化しようとも、最終的に価値を判断し、選択し、責任を負うのは人間自身であります。

今後におきましても、デジタルツールの適切な活用を進めつつ、児童生徒が豊かな感性や道徳観、自律的な判断力を確実に身に付けていけるよう、持続的且つ質の高い教育実践に努めてまいります。

(再質問)

●町では「生成 AI 利活用ガイドライン」策定、各学校では「児童生徒対象生成 AI 利活用ルール」が策定されました。今年の夏休み前から準備され、2 学期から AI 利活用の共通認識が図られました。各校で生じた問題や有効だった活用事例を教育委員会で共有し、ルールの見直しに反映する仕組みづくりはされているのか伺います。

○発達段階ごとに 3 パターンの当町オリジナルのミニ教材を作成されました。善悪の判断、自己責任の重要性について体系的な指導を継続されておりますが、体系的な指導とは具体的に何を身につけることを目標とされているのでしょうか。発達段階ごとに伺います。

●各校でのルールやミニ教材について、ご家庭との共有も行い、家庭と学校が連携して取り組んでいただきたいが、いかがでしょうか。

●何を善悪判断の基準とするかが大変重要です。人間は機械ではないので、心の指導が必要です。AI を活用しつつ、データ処理や AI には難しい「人対人の交渉」「心理を読む力」「押したり引いたりしながらの落としどころの模索」といった、人間ならではの力を高めること、そして、世のため人のために尽くす人材をひとりでも多く輩出していくことが大事であると考えますが、教育長の見解を伺います。

3、町内全域の道路状況の把握は

町内の道路において、舗装の穴あきやひび割れ、側溝の破損等が散見されます。限られた財政状況の中で、それらすべてを修繕することは困難であると理解しています。しかしながら、地域住民からは「特定の地域だけ道路が綺麗になり、自分の地域は後回しにされているのではないか」等、不公平感を抱く声も届いています。行政として地域住民の視点に立った「公平性の担保」は極めて重要であり、町内全域の道路状況をどのように把握されているのか伺います。

（答弁 都市施設整備課長）

質問事項3について、事務を担当しております私からお答えをいたします。まず、町が管理している町道はⅠ級、Ⅱ級の幹線道路と一般町道を合わせますと1千876路線、実延長で約485キロメートルあり、厳しい財政状況の中、限られた予算及び職員体制において、それら全ての路線について補修及び修繕することは困難な状況となっております。

なお、杉戸町道路舗装修繕計画の中で、補修の優先順位を定めているところではございますが、町内の主要幹線道路においては、道路のひび割れや凹凸の状況を調べるために、定期的に路面性状調査を実施しており、調査結果を元に修繕の優先順位を決定しております。

また、これらの優先順位に該当しない一般路線であっても、町内全路線を対象とした職員による道路パトロールを週2回以上実施し、舗装の穴やひび割れなどが見受けられる箇所については、まずは常温合材等を使用し、職員による補修作業を実施するとともに、職員による補修では対応しきれない箇所につきましては、当課で発注している道路維持管理工事により補修対応しているところでございます。

今後につきましても、職員による道路パトロールの実施や行政区からの要望、近隣住民、通行者の皆様からの通報等により道路状況を把握し、町道の安全性確保に努めてまいります。

(再質問)

●杉戸町道路舗装修繕計画では、主要幹線道路約 65 キロには定量的な優先順位がある一方、一般路線約 420 キロには同様の優先順位付けがないという理解をさせていただきました。主要幹線道路と同じ詳細な路面性状調査を一般路線すべてに行うことは、費用・職員体制から現実的ではないと考えます。同様にすべての町道を補修及び修繕することは困難だと私も思っております。だからこそ、町としての優先順位の考え方を「道路の維持補修に関すること」に追記してホームページ等で公開し、「なぜこちらを先に直すのか」地域住民にも御理解をいただけるようにするのはいかがでしょうか。

●週 2 回以上の道路パトロールですが、どの路線をどのような順番・頻度で確認しているのでしょうか。町内全域を一定期間で一巡できているのか伺います。

●「道路の不具合通報サービス」などを通して、地域住民から頂いた御要望にはすべてに、その都度現場を確認し、必要に応じて補修を実施されているのか伺います。

●町長にお聞きします。道路パトロールをして、その後に残業で事務仕事をしという現状をお聞きしております。それでも全体の道路状況の把握は行えておらず、一方で地域住民からは不公平感を抱く声が届いている現状があります。このような状況の改善は必要と思われませんが、どのように対応されるのか伺います。

行政には行政にしかできない仕事があります。道路補修・修繕はそのひとつです。「なんでこんなに税金を払っているのに、道路も水道も維持できないのか」というお声もございます。行政にしかできない部分にしっかりとお金を充てて、町民生活を守っていただきたいことを要望します。